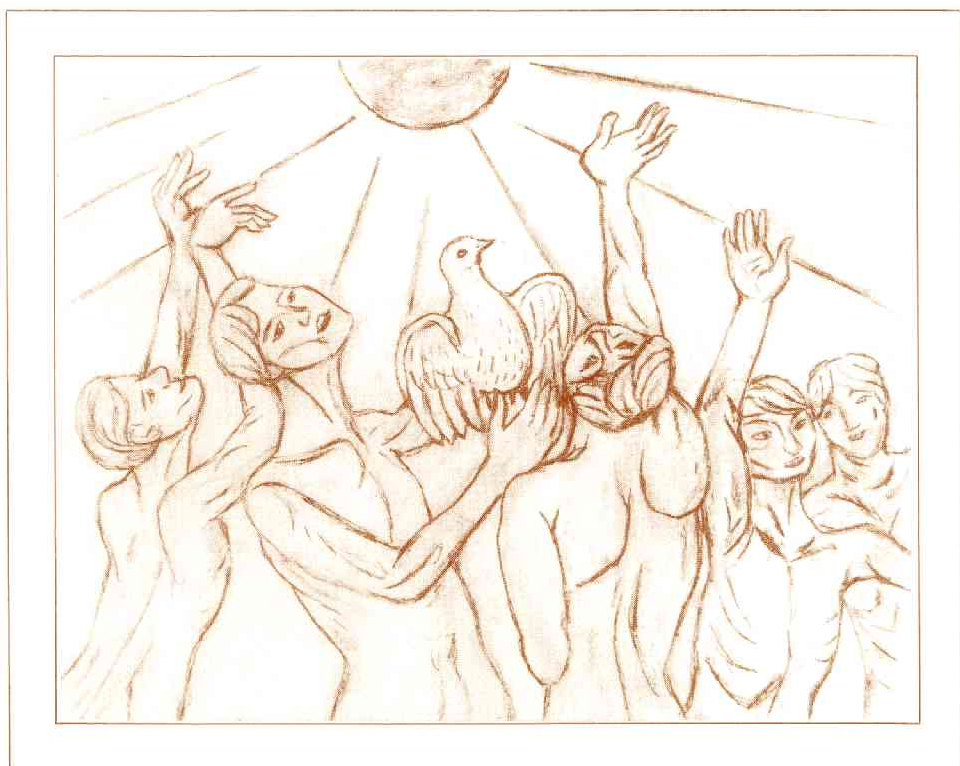


高

朋友

1996 (第12号)



東京電機大学高等学校同窓会

《表紙について》

本誌名の「朋友」は、仲の良い友達とか友人という意味を持ち英語での「FOR YOU」……（会員の皆様方のための）という意味を持たせております。これは同窓会幹事会において驚見篤氏よりご提言いただいたものです。

また、表紙の画は河部貞夫先生作のレリーフ「若者の像」を、本誌のため再度先生にデッサンしていただいたものです。もともになったレリーフは、学園創立60周年記念に合わせて、同窓会で募金したレリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれていました。現在では小金井校舎テニスコート脇に移設されております。

遠くにありて —卒業生A君への手紙

東京電機大学高等学校同窓会名誉会長 松岡三夫
東京電機大学高等学校長

お元気でしょうか。久しくお便りを差し上げておりませんが、ご活躍のことと拝察いたします。月日のたつのは早いものでして、貴兄が本校を卒業されてからもう27年にもなりましょうか。私が勤めはじめてからは30年を越え、校長を拝命してから3年たち任期が終わろうとしています。まこと光陰矢の如しです。ところで、

人生は落丁の多い書物に似ている、と言ったのは芥川龍之介。さらに続けて、

一部を成すとは称し難い、しかしとにかく一部を成している。

この警句を私がはじめて知ったのは高校一年の秋だったでしょうか。学校の図書室で借りた岩波

昨年6月に、平成8年度の総会いたとき、このア月の定例幹事会に於いて新会長に入ったのを昨日の務めは全て終了と思っており、

任挨拶の原稿依頼があり、気持 弊を受け、いつま戻しご挨拶をさせていただくのが一つや二つあ

平成2年6月の幹事会に於いてとって芥川のこのせつかり同窓生諸兄、教職員皆

ご協力により微力ながら今日まで結びついていただきました。特に、平成6年4月。私にとってもうり東京を離れたため、副会長さとりでに口をついには、公私に渡って多大なご負担 景異情」にある例の

ふるさとは遠くにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや

です。これも高校の国語の時間にめぐりあっていつの間にか記憶の裏にたたみこんだものです。ああ、そうでした。これは貴兄が高校生だったとき英語の授業で息抜きにそらんじた詩でしたっけ。今でも酔った時など、独り吟じている自分を発見して苦笑することがあります。あの時の高校の教室と窓外の風景まで浮かんでくるのです。

ところで、古里と出身高校はどこか似ていると

思いませんか。啄木ではありませんが、別に石をもて追われた古里（母校）でなくとも、なぜか帰るところにあるまじやと思いたくなるふしがありそうです。それは時間とともに

古里も母校も変わっていくからかもしれません。

私の古里も大きく変わりました。瀬戸内海の芸予諸島にある小さな島が生まれ故郷です。戦前は除虫菊や葉たばこやミカンなどを栽培していましたが、今は柑橘類が主産業です。島には現存する鎌倉時代の甲冑類の8割を蔵すると言われる大山祇神社もあり、最近温泉も湧き出したりして観光化が進んでいます。昔の狭かった砂利道は広い舗装道路に変わり、長閑だった田野は近代的な風景となりました。

私の古里が姿を変えていったように、貴兄の母校である東京電機大学高等学校も、すっかりその姿かたちをかえました。昭和30年代の終わりまでは神田校舎で電機学校や大学と同居、昭和40年代の初めから昭和60年代のなかばに当たる平成4年3月までは小石川校舎、そして平成4年4月から小金井校舎になりました。訪ねてこられる卒業生の方々は、立派なキャンパスになりましたと異口同音に仰言ってくださいますが、母校が発展する喜びと同時にちょっぴり淋しさもおありのようです。

先日も、貴兄と同級生だったK君からの便りに、この間、3年間通った小石川校舎の前を通りましたが見知らぬビルが立っていて寂しくおもいましたとあり、これが卒業生の本当の気持ちであろうと感じいました。私も田舎の出身高校がもうあの木造校舎ではなく鉄筋コンクリートに変わっているのを見る時、同じようなもの哀しさをお



遠くにありて……………	1
同窓会会長就任にあたって……………	2
会長退任にあたって……………	3
特集 同窓会設立35周年記念講演 『中畑清・大いに語る』……………	4
卒業者数一覧……………	17
クラス委員一覧……………	20
平成8年度 幹事会議事録……………	27
同窓会活動報告……………	28
会 則……………	30
中学担任奮戦記……………	32

同窓会設立 35 周年記念講演

中畑清・大いに語る！

平成 7 年 7 月 1 日・東京電機大学高等学校小ホール



今年の巨人軍

みなさん今日は。なんか、中畑清人気ないな？この会場がいっぱいだと思いましたがね？35周年おめでとうございます。体が弱くて、今日は風邪ぎみなもので、本当は美声なのですが、お聞き苦しい点をご容赦ねがいます。

今日の話はですね、自分としては、野球を通して話しか出来ませんので、その中に少しでも為になるものがあれば、心の中において欲しいと思います。

自分で考えて、短い時間で話すには何が一番い

いか、今の厳しい世の中で耐えぬいて頑張っているためには、何が大切なものなのかということをお話ししながら、進めていきたいと思っています。あまり時間がないので経験した中で話していきたいと思っています。

その前に私の方から皆さんに二つの質問をしてみたいと思います。今のジャイアンツを見て、今年の低迷している原因は何なのかと、皆さんにお聞きしてみたい。自分としては二つあると思う。原因が。誰かこの会場の中で手を上げて答えてくれる人がいないか？

校長いいんですか、いきなり。

「ファイトがない」

これは非常に分かりやすいですね。その後ろの方は。

「中畑が辞めたこと」(場内拍手)

あー、これは非常にいいな、これが第一点、これしかない。一君は、いい男だな。まず、私がクビになったことが第一だと思う。

第二点は、これはちょっと難しいかもしれない。私の頭の中にあるものと、ちょっと想像つかないかもしれない。ほかにいえる方いらっしゃいますか。そこどうぞ。

「プレッシャーに負けている」

これはどのチームにもありますね。勝たなければいけないというプレッシャーに負けている。常勝巨人軍ということで、勝たなければいけない。その割には最初校長がいわれましたように、ファイトがない！プレッシャーがあっても、やっぱり表にでてくるものがあれば、ファイトがでていれば、ちょっと違う受け答えができるんじゃないか、そういう気がしますよね。プレッシャーがあるならば、あるなりにの姿を見せてほしい。しかし見せてない。

一番はね、この間開幕して2戦目ですか、例の桑田がヤクルト戦でデットボールを頭に当てた、あの試合なんですけど。

あの試合の前に、我が神と尊敬しております長嶋『尊師』ですね、私から見ますと。本当に長嶋さんに対しは神のように慕っております。

その長嶋さん、昨年日本一になりました。一つの夢でございます。私もコーチを引き受けた一番の気持ちの中に決めていたことは、長嶋茂雄を日本一の監督にしたい、そういう願望を持ってコーチを引き受けました。それがクリアーできたわけです。

それで、心の中に長嶋監督も少し油断があったんじゃないかというできごとが、実はその2戦目にあったのです。

というのは、バッティング練習をしているときに、その日の解説があったものですから、私取材をしております、武上さんと話をする機会があった。そのとき、第1戦でヤクルト4番バッター、オマリーが足首を捻挫したという、そういう情報が入りまして、第2戦はおそらく出場できないだろう、そういう話をしたんですよね。そうしたところ、長嶋さんが意気様々とバッティング練習に現れたんですね。そのときに武上さんから

「監督、今日はオマリーが出場できないみたいです」

という話をしたんです。

そのころは、例のサリンで、東京ドームも非常に厳戒体制で練習の時から緊張感が走ってわけですよ。もうサリンがまかれるんじゃないとか、そういう情報が入っていましたから。緊張していました。

で、「オマリーが出れません」という話しに、監督開口一番「えっ！オマワリはこんなに会場にいっぱいいるじゃあないか？」(場内笑い)

「いや監督、オマワリじゃありません。オマリーです」

「オマリーの一人や二人でれないくらいで、がたがたいうんじゃないよ」

というちょっと舐めた、相手の4番が出場できないというのは味方にとって大変有利な条件です。それをあえて「オマワリはいない？オマワリはこんなにいるじゃないか」という、その爆笑したエピソードの中に、少し心の油断があったのではないかと判断したわけでありました。

あまり受けませんでした、まあ、これくらいでいいでしょう。

私が一番いいたいのはですね、いまこの選手達、この一番前に野球部の選手達いらっしゃいますね、大野君、キャプテン。先程ユニフォーム姿を見まして、この高校は弱いなと思いました(場内笑い)まず、着こなしができてない、ユニフォームの。すべて外見から入るんだよ。そのあたりのテクニックが今ひとつないなと、このあたりが、監督の指導が少し弱いのかな、という気がいたします。

野茂と一茂

いまメジャーで野茂が大活躍しています。彼の生き方、生きざまを見て、何が一番大事なものの、彼自身の中に強い信念を感じます。

彼自身日本で野球を続けていけば、それなりに年俸も満たされて、いい生活ができたはずですよ。でも、自分の夢、自分は何を目指すんだ、一つの枠にこだわらずに、その枠をはみだしてもいい、自分の夢に対して目的意識をしっかりと自己主張し

て行動していく、そして結果的に結び付けた、あの姿、本当に感銘しています。

できません、普通であれば、われわれでも、ジャイアンツでレギュラーを取って、1年2年経つうちに、今度は守りにでるわけです。普通の人間であれば、その環境に甘んじていくわけですよ。それで、何とか1年でも長く、この安定した生活で活躍できればいいという、視野の狭いものになっていく。



彼は違う。それを捨ててもメジャーで、今まで日本で築き上げてきたものすべてが無になるかもしれない、でも、その危険を、自分自信の夢を実行するために色々な障害があった、野球協約の中でも、それをクリアするために、自分自身の足で、行動を起こして歩いていったわけです。それでこれだけの、世界中に話題を提供できるだけの結果を、成績を残している。

これは何だろう。やっぱり自分自身好きこそ物の上手なれという、自分が子供の頃に描いていた夢、日本のプロ野球のピッチャーを目指すのではなく、メジャーで投げたいという、視野の広い、一番高いレベルの中に目的意識をしっかりと持っていた。そして自分自身その後努力する姿でプラスアルファのものがうまれてくる。そこが一番大事。

長嶋一茂を見てください。彼自身目的意識が何だろう？巨人軍のユニフォームを着る？そんなじゃない。野球を本質的に好きでやってきたか？違うと思う。何にか自分自身の中にただ野球という親父の育ってきた次の世界にそういう環境があっただけで、素質的にはものすごくいいものを持っています。三拍子そろっています。攻守走どれ

をとっても、今であれば十分日本のプロ野球で通用する選手です。それが、なぜその三拍子がマッチしてレギュラーを取れないのだろう？

「なんだと思う、大野？なんだと思う。」

「長嶋一茂はやる気がない」

やる気は一時あるんだよ。三日間はあるんだよ。(笑い) 続かないんだ、これが。継続は力なり。続ける信念、自分の勇気。それがね、続かないんだ彼は。なぜだと思う。原因は何だと思う。

やる気がないのはいっぱいいるよ。やろうと思っても行動に移さないやつもいっぱいいる。なんだと思う。

君の家は金持ちか？貧乏か？金欲しいか？いい生活したいか？いい車乗りたいか？いい家に住みたいか？どれをとっても欲しているのか？

「思います」

思うか？強く思うか？自分の力でそれを絶対とてやろう、築き上げてやろうという気構えがあるか？

「あります」

声が小さいよ。ないだろう、それじゃ。できたら誰かにゆずってもらいたいな、そう思っているだろう。(笑い) これなんだよ。やはり、子供の時から環境、非常に恵まれたすぎる環境。私はそれが恵まれているとは思いません。はっきりいって、その子供は不幸だと思います。逆にいえば、自分で喜びを感じ得ない。当たり前だと思ってしまう生活環境ですね。何でも欲しがれる物が目の前にあって、手に入ってしまう。自分の努力で手に入れたものが果たしてあるのだろうか。自分の努力で手に入れたときの喜び。これは何にかえがたい自分自身のよろこびですよ。

それをどう判断するか。

長嶋一茂は今1200万の年俸です。1200万で手取りは幾らになるか。700万か、600万位なものでしょう。その収入のなかで、彼はどういう生活をしているか？家賃30万のマンションに住んで、ボルシェを乗り回して、携帯電話を常に携帯して、これに電話したり、その生活の中でなぜ、競争社会の中で自分のポジションを取ろうなどというそんな気持ちが生まれますか？

継続は力なり。厳しい練習を、これだと思っ

私は無理だと思う。はっきりいって、素質があっても、一番大事なものが、ハングリー精神がない。本当に取るぞという、俺の生活環境はこの野球しかないんだという、そのハングリー精神がなければ、長嶋一茂は早いうちに第三の人生を選択すべきだと思う。親父さんもそれを選択させてあげるべきだと思う。

その環境を与えているのは、誰だろう長嶋茂雄だと思います。その生活はできない、今の給料では。そう思って止みません。

はなはだ簡単ではございますが。

長嶋一茂の例をとりましたが、野茂との格差がありすぎて片や28才で、インターナショナルです。メジャーの世界で超一流を目指して、結果を出している。いろいろな障害を乗り越えて。片やいろいろな障害もないのに、自分から放棄している。その姿を、あまりにも比較が激しいかもしれないけれども、現実には長嶋一茂の方が私は多いと思う。だから目的意識というのはなんなんだ。

中畑清の夢

今、高校3年生の野球部の諸君がいる。野球を通していろいろな経験をしているだろう。仲間意識もしっかり持っているだろう。チームプレイで一番大事なものはなんだって聞かれて、おそらくこの野球部でも監督に教わっているものがある。

ちょっと線が細いかもしれない。後で聞いてみるからな、大野いいか、そのときにどう答えるか？どう答える精神面を持っているか？自分の考えをしっかりと皆さんの前で自己主張できるか？これは後の楽しみとして置いておきたいと思っています。

私の目的意識を少々話させていただきます。

私は福島に生まれて、子供のときから野球という、その長嶋茂雄の存在に非常に憧れまして、何とか長嶋茂雄になりたいなという、そういう気持ちを強く持ちました。

いつも長嶋茂雄のまねばかりしていました。プレーひとつでも、スローイングひとつでも、こういうスローイングを練習していました。子供のときからこんなことをやるやつはいませんよ。体弱いのかなと思われちゃいますよ。それもスイングも、空振りするスイングを毎日練習していました。本当

は当てるのが練習なんです。でも空振りする姿で、最後にバットをほおり投げる、その姿まで練習しました。

この憧れて、一番いい目的を私に与えてくれた神ですよ。こう生きなさい、プレーヤーとしてあるべき姿、プロとしてあるべき姿はこうだと、教えてくれたのは長嶋茂雄です。それにめぐり合えて、野球を通してここまでこれた。本当に感謝しきれません。長嶋茂雄でなければ一軍にも入れない、レギュラーもとれない。本当に懲りもしない、長嶋茂雄が何回も何回も私にチャンスをくれました。お陰で、ジャイアンツで10年間のレギュラーを取ることができたのです。本当に感謝しています。

その長嶋茂雄に始まって、私が今持っている目的意識、これは何だと思いませんか？私が今一番やってみたいという、目的意識をしっかりと持っています。私は。副キャプテンいるか。何だ、中畑さんの目的意識、強い目的意識をもっている。何を持っていると思う。そう、俺は歌手になりたいんだ。(笑い)

何だと思う。うん、分からないか。これだけアピールしていき、長嶋監督、長嶋監督ってっているだろう。

「監督になりたい」

あたりまえじゃないか。もっと大きな声でいってくれよ。そう私は本当に、一度監督で勝負してみたいというのが、自分の今の目標であり、夢では終わらせたくないです。現実には3年以内に必ず監督になります。私は。政治家に立候補するわけじゃないですけども。(場内拍手)ただ、需要と供給がありますから、(笑い)私の場合は、こうやって公の場で、自分はこうなります、家を30までに立てますとか、公約すると必ず実現するんですよ。だから、どんな会場でも私はいつづけています。現役を止めてから、私の一番の夢、目標は監督をやることです。

監督業の魅力

たまたま、去年一昨年とコーチになってしまいましたが、私はコーチはやりたくなかった。あのおっさんが、いや、おっさんじゃない、あの尊師がですね、ユニホームを着なかったらですね、私

はコーチをやっていないんです。

でも、その夢はひとつはクリアできましたから、親父の夢を実現することができたんで、昨年ユニホームを脱ぎました。これからは、自分の自意識です。

なぜ私が監督になろうという、そういう意識を持ったか？現役時代は、ひとつも思わなかった。監督業ほど、こんなばかばかしい仕事はないだろうと思っていました。なぜかという、尊師と崇め、そして尊敬に値する王貞治、ONを平気でばかやろう扱いにしながらクビを切る読売巨人軍の体質、これに対して私は許せなかった。球界の宝の二人を平気でクビを切ってしまう、こんなにばかだちゃんだといわれて、我々が神と崇める人達を簡単にクビをきってしまう世界、とんでもない！俺は現役をやめたら絶対歌手で食っていこう、強く心にきめました。

でも、平成元年、藤田元志という監督によって、あれー、監督業っておもしろな、男として、人生を賭けるだけの価値観のある仕事だな、と思わせるそういう1年間を味わうことが出来たんです。というのは平成元年も私、ファーストからサードにコンバートされました。サードには原辰徳という、本当に腹の立つ男がいました。彼が、監督も、動きが悪いんで、ピッチャーの方からクレームがついて、外野にまわすから、どうだ清サードにも戻ってくれないか、そういう要請があったわけです。

戻りたくてしょうがないんだから、いつも。ファーストはアルバイトの感覚ですから私は。辰が入団したことによって追いやられたポジションです。本当にくやしかったあのときは。でもおかげで、ゴールデングラブ賞を7年連続でとり、オールスターにも7年連続で出場することができたんですよ。サードじゃできなかったですからね、掛布とかいて、いい選手がいっぱいいましたから。そういう意味では競争社会ではないポジションに左遷されて、そこからある程度長生きできたという環境を与えてくれた原には感謝しています。でもその原も年齢とともに動きも鈍くなって、外野で何とかバッティングを専念するというので、私も張り切りしました。自主トレからキャンプ、オープン戦、絶好調ですよ。久しぶりですよ。初

心に返った気持ちで頑張りました。

だいたい調子がでけると怪我をするタイプなんです。うん、そういうタイプ。いるでしょう。君の顔つきはそういうタイプにみえるよ。うん、そうだろう。いい顔しているよ、俺と似ているよ。「そうでしょ」じゃないんだよ、おまえ。

その開幕して5試合目、たしか甲子園で、阪神戦、牽制球に引っ掛かりまして、私、薬指を骨折しまして、戦線離脱。一月半の治療を行ってから現場に復帰しました。



そのときにはもう、サードはあの岡崎薫が、また、これが絶好調なんだわ。非常に、この一年間に関しては、岡崎薫はレギュラーを取ってしかるべしという成績を残しました。そのくらいチャンスに強いバッターで、非常に。私も入る余地なし。この若い勢いのある選手がいれば俺のポジションはもう彼のものだな、なっとくづくで私はベンチに座っていましたよ。

でも試合の経過からいけば、後半戦代打が必要なきもあろう。その一番必要性で第一番目に指名されるのは俺しかないだろう。ベンチのなかに座っている控えで、そう思っていますよ。だからいつも監督の目の前まで行ってアピールするわけだ、こうやってスイングして、ようし代打だな、俺の番だ、出番だ。絶対使えよ、アピールするわけだ。

そういうことするんだぞ、大野。なあ、そうして監督も、藤田さんも「うん、いいスイングしているな清まっけよ」と、いいながらコールするのは「代打、井上」(笑い)

タイムショック！

本当にね、采配たるや、あの年いろいろいわれ

ました。最大限の評価、賛辞は藤田マジックという、いま、仰木マジックとかいわれていますが、あの年の藤田マジックといわれるぐらい監督の采配は、何を起用しても、すべてびしびしはまってい。監督としてこれほど気持ちのいいものはないだろう。

監督として大切なこと

ここの生徒はだいたい采配通り動いてくれないだろう。みるからにそんな感じね。控えの選手含めて、だって監督があした負けるかもしれないですっていつているんだもの。勝てないよこれじゃ。えー監督、わかっているのかい！



でも、藤田采配の一番大事なものはなんだろう。男として、頂点に立った人間が采配を振るう中で一番大事なものはなんだろう。私は自分にも、それを藤田さんに見つけました。

それは何だ。人を切る勇気。情にほだされなくて、自分の目、眼力で決断し、実行していくことです。これが勝負の世界で一番大事です。

中畑清もそこに一番弱点がある。情にほだされてしまう。弱さがある。好きになってしまう。そうするとどうしても使ってしまう。

いまキャッチャーで使いたいのは大久保ですよ。好きなんだな、あのタイプが。なに考えてのかわからない、どんなボールでも最初から振っていく、あの姿、自分の現役時代そっくりなんだ。シンプル・ザベスト、きたボールを振ればいい。長嶋茂雄から教わったあの打法だ。シンプル・ザベストなんだな。

これで、だいたい使うのなら自分の好きな人間にどうしても情がいつてしまつて、おそらく起用してしまうだろう。でも、監督がチームを勝つために、これから何年か先を読んで、軸になっていく選手、それを自分の眼力で、情にほだされずに、采配の中で起用していく、その勇気、これが一番監督業の中で大切なことなんじゃないかなということを、藤田元治に教わりました。

それで、3年目にですね、その藤田さんから、実はコーチの要請をうけたんです。いつも自分で迷いがあつたときに相談する人、大学時代の野球部の監督、そして、尊師と慕っております長嶋茂雄に相談をいたします。

長嶋さんに電話しました。「もしもし中畑です」

「おう、清かどうした。えーコーチ、誰から。藤田から。まだ、止めてから何年たつんだよ、おまえ」「ハイ、2年です」

「2年だろ、まだ早いな、もうちょっとと勉強してからだな、じゃな」ガチャン！

非常に端的に答えていただきました。やっぱり神の声ですから。神の声に逆らうわけにはいきません。そこで即、私おことわりをいたしまして、藤田さんに。まだ自分にも自信がないのでおことわりいたします。というお話をさせていただきました。その結果、藤田さんが心配されていたとおり、ジャイアンツの低迷がありまして、藤田さんは自ら勇退されました。

長嶋監督のもとで

その頃の野球界といったら、本当に危機感がありました。Jリーグが発足し、すごい隆盛を極め、ものすごい勢いがありました。野球界があぶないぞ。というところで今度立ち上がったのが誰だろう尊師です。12年間のブランクを乗り越えてジャイアンツのユニホームを着たのは、野球界のために着たんです。

ということは、今度その神をサポートするのは誰だろう。私しかいないわけですよ。誰もが認めてしまう、私しかいないわけです。(拍手と笑い) 笑いすぎじゃないですか、拍手しながら。今度逆に、電話がありました。

「もしもし長嶋です！」

元気がいい。エブリデイ、エブリタイム、元気がいい。私の倍、元気ありますね、まだ。

「わかっているな清、やるぞ！じゃな」ガチャン！

誰がやるんだ？親父がやるのはわかっている。でも、何をすればいいか、そういう細かい話は一切ありません。でも自分でも、要請がなければ、こちらから押し掛け女房でもいいからやってやろうという気構えがありましたから、

「ハイ長嶋さん」

今度は会って話をしまして、「自分はバッティングが好きですから、担当としてはバッティングコーチをやらせてください」

と、いってしまった。そのとき、本当にはっきりいえばよかった

「ヘッドコーチやらせてください」と。

失敗しましたね。

現役とコーチとの隔たり

しかし、バッティングコーチ、これは非常に難しいポジションですよ。

しかも今の選手達、自分と一諸に現役を戦ってきた選手がみんな残っているわけですよ。現役止めてまだ3年目でしたから私。原がいた、岡崎がいた、駒田がいた、それで篠塚がいた、それで河井がいる。一諸にやってきた選手ですよ。気心も知れているだろう。自分も心を割って話してきた選手達だ。何でも話合いでチームも丸く進んでいくだろう。そういう自負があった。

でも、蓋を開けてみたら、その3年間のブランクと共に、今度中畑清にバッティングコーチという肩書きがついたことによって、選手の見目が変わる。ひとつ偉くなったのかな、という錯覚さえ自分でしてしまうぐらい、選手から距離ができてしまう。

わかるかなこれ。なあ、わかる？わからないだろう。経験しないとわからないんだな、やっぱり。何事も。でもそのとき自分でも恐ろしいぐらいその肩書きに酔っていたことがありました。ですから、一番困ったのはあの駒田、コマツです。駒田には本当に困りました。まあ、結果的にはどちらかが辞めなければいけない状況になってしま

いましたが、そこに行き着くまでの経過については、ここで話している時間がないので、省略させていただきます。でも、結果的には去年日本一になったということでどちらが正しかったかな、どちらを選択したのが正解だったかなという答えは合っていると思います。

日本一になるという、そこで拍手があるとうれしいんですがね、(拍手)

まあまあ、こちらから要求することじゃないから、あと勝手にやってください。すみません。

コーチに求められるもの

そのときにですね、日本一になった、そのコーチ業というものに対して、自分自信も自負があったんですが、選手の心に一番大事なものはなんだろう。飛び込むことだ、その肩書きを取り除いて、飛び込んでいくことが一番大事だな。選手は何を求めているか。やっぱり不平不満もあります。

今年の原、岡崎あたりも不平不満が溜っているでしょう。生え抜きの選手が補強の選手が来たことによって全部追い出されてしまった。ベンチウォーマーになっている。

その選手達の心のストレスをどうやって排除してやるか、ということが一番大事だ。ストレスを溜めれば溜めるほど、チーム内に不協和音が大きい、やっぱり円滑に活用していかない、目的意識がひとつにならない。自分の立場を主張する、自己主張している。目的が違う。俺を出せ、違うんだ。チームは勝つためにやるんだ。

ですから、どんどん自分の見解が変わっていくためにチームはまとまらず、崩壊していくんですよ。そういうときのチームは弱い。それが今年そういう危機もありました。でもそれを乗り越えています今。

だから、コーチ業とは何だ。末端管理職だけれども、パイプ役なんだ。いつも選手の心の中に、プライベートな時間も含めて、いま、大野は彼女とケンカしている、おい、彼女の気持ちになってやれよと、アドバイスをひとつする。「あの彼女は本当に僕を好きなんですかね、不安でしょうがないんです」という心をひとつ解消してやる。

人に話すことによって、そのストレスがひとつ

ひとつ解消していくんです。そういう気配り、コミュニケーションというと、非常に少なかったと反省して、昨年は選手の気持ちの中にどんどん入り込むために、こちらからアプローチをかけました。一生懸命アプローチをかけて、選手の心の中に入って、相手から本当に悩みを、自分のほうからいってくれるような環境になりました。2年目にしてそれなりにコーチの役割ができたかなと自負しております。

そういった意味でいまの選手、それからいまの生徒たちが一番何に自分達のストレスを溜めているのかと、やっぱりコミュニケーションの足りなさじゃないかと思うね。一方通行にならないことに気をつけていく、そういう気配りがほしいなと、監督、そう思います。はなはだ簡単ではございますが、今後ともよろしくお願いいたします。

日本一の勝因

それですね、昨年日本一になれた。130試合目に日本一になれた。その原因はなんだろう。何だと思いませんか。130試合目、中日と勝った方が優勝なんて長嶋監督も初めての経験なんですよ。長い野球人生の中で。あのプレッシャーの中で勝てた原因、何だろう、監督、何だと思いませんか。ただただツキがあったということだけか。裏付けがきちんとあったんですよ、これには。ここだけの話、披露しましょう。

それはですね、長嶋さんと、監督と「清、なんか選手にプレッシャーかけない、本当にいいイメージを作って試合にださせてあげたいな、なんかいい方法ないかな」

「監督ありますよ。昔プラス志向の話をしてくださったじゃないですか。そういったことから、あしたの先発は今中に決まっているんですから、今中を打ったシーンだけ編集してもらって、選手がみんな個々に打ったシーンを何回もビデオに編集してもらって見せましょうよ。俺は打てるんだ。俺は打てるんだ。俺は今中打てるんだ。そういうことをやりましょうよ」

「それ、いい手だな」



じゃ、練習が終わって、ミーティング、野手を全員集めて、それやりました。それで、そのときにスコアラーから、今中のデータで癖がある。今中の球種が中畑さん、ピッチングのフォームで全部分かりますよ。という情報が入ったですよ。

130試合目にしてですよ。もっと早く分かったら、簡単に打てるんですよ。球種が分かったら、プロ野球の選手というのは。

じゃどういう癖だ。ここだけで教えましょう。大野でてこい。よし、今中になったつもりでピッチングフォームやってみなさい。

「でも、ぼくは右利きだから」

右でも左でも、カッコぐらいできるだろうお前！きのうきょう野球やったわけじゃないだろう。左ピッチャー打ったことないのか。ちょっと、かっただけやってみろ。

不細工なピッチャーだな。こうwindアップするだろう。そのとき、この手の甲を見ただけで球種が全部わかってしまう。むろん今中の死活問題ですから、本当の癖は申しあげられませんが、簡単な癖で100%球種が分かる、そういうデータが入ってきた。

大野ありがとう。

それをもとにですね。ビデオを見ますと100%合っているんですよ。球種が全部分かるんですよ。それで監督も納得しまして、これは手応えを感じるぞという顔で、ミーティングが終わりました。あしたのオーダーを決めるために監督室にいったんですけどね、そのとき、開口一番、私は監督に初めて自信を持って、あした5回までに4点取りますから、絶対今中を打ち崩せますからピッチャー頑張ってくれたらいいですね。

今度長嶋さん開口一番、

「うん、清。ところで今中の癖はどうやって分かるんだ」(笑い)

監督1時間近くずっと一緒に聞いているんですよ。一から十までずっと聞いていて、うんうんと納得していて、本当にみんな癖分かっているのかな？分かってないのはオッサンだけだよ。本当にいたかったですね。

長嶋茂雄の偉大さ

そのときにですね、私はこの二十年近く傍らに置かしてもらって、長嶋茂雄の偉大さ、なんなんだろう？いろいろなプレッシャーのかかった中で、結果をだしてきた、本当にファンに愛される結果をだしてきた、その原因は何だろう？わかりましたよ。その一言で。

相手の癖とかデーターとか、何も関係ないんですよあの人は。きたボールをただ打てばいい。本能的に、相手のピッチャーの一番いいボールをいつも待っている。それができる人ですよ。どんな環境でも、自分の姿は結果をだせる、その力を信じて一番いい球を待ってて打ってるんだと。

これですよ。シンプル・ザ・ベストという。きたボールを打てばいいんだということを、教わったことの裏付けをはじめ確認することができましたよ。確信しましたよ。やっぱりこの人でなければ、これだけ人に愛される野球人でいられなかったんだらうなと。プレッシャーのなかで、天覧試合のホームランとか、とんでもないことをしかす人。これはあの人の持った天性の物なんだと教わりました。

みんなプレッシャーで殺されていくんですよ、勝負の世界は。そのプレッシャーを感じず、いつも楽しんでプレーしている長嶋茂雄。

自分の力を、練習通りの力が出るんだったら、4割りバッターなんか簡単に出来ますよ、プロ野球だったら。それくらいの技量は持っているんですよ。私ですら4割り打てるかもしれない。球種が全部かかったら。

でもあのひとはシンプル・ザ・ベスト、きたボールをただ打てばいいんだという、シンプル・ザ・ベストの考え方でプレーしていた。その裏付けを、130試合前のミーティングが終わった後に、あれだけ説明して「ところで今中の癖はどうやって分

かるんだ」と聞かれた時に、本当に再確認しましたね。

すばらしい人と、長い間野球をやれてきたんだなと。うれしかったですね。あの人は、人間じゃないと思います。はっきり言って。宇宙人のような気がします。今でも瞳がブルーなんです。色つきコンタクトを入れているわけではない。本当に澄み切った野球少年のような目を未だにしています。

よかったな、この人と一諸にやれてよかったなとつくづく思わせてくれる、私の導師でございす、はなはだ簡単ではございますが。

人を動かす力

その最後にですね、何が一番大事かという、人が持ったパワー、これを相手に伝える時に、どういう伝えかたがあるんだらう。長嶋さんが10・8の最後のミーティングで出陣のまえにですね、同じことを3回いっただけなんです。

いつもはよくしゃべるんですよ、しゃべったら止まらない、機関銃のようにペラペとしゃべりっぱなしですけど、その日は本当に多くを語らず、「今日はみんなわかっているな。いいな、「今日は絶対に、勝つ！勝つ！勝つ！よし、行こう」

これですよ。

久しぶりのシンプル・ザ・ベストのミーティングができました。「勝つ」ということばに対して、最初はみんな目線を合わせなかったんです。監督が話している時に選手もみんな合わせないんですよ。でも「勝つ」というトーンがいつもと全然ちがうんですよ。ピンと、意識がしゃきんとして、監督の目を見て、2回目の「勝つ」というときには、背筋が伸びきりました。私も座っていたんですが、ピーンとなりました。そして最後の「勝つ」という言葉で、全員起立ですよ。自然にですよ。その言葉が動かしているんですよ。選手も、裏方含めて最後の喚声と一緒に

「いくぞ！」

初めてです。2年目にして、裏方ふくめて全員が気持ちが一つになって声を高々と挙げたというのは。その10・8のミーティングの最後の監督の「勝つ」という言葉で、目的意識が一つになりまし

た、ハッキリ一つになりました。あのパワーは2年目にして初めて感じる事ができました。

もうグラウンドに行けば、われわれの気持ちの方が中日より全然優っていました。練習している、今年大豊不調ですけど、去年は絶好調でした。その大豊でさえも、勝った方が優勝というそのプレッシャーで足なんか上がらないですもの。ひどいバッティングフォームですからね。もうその姿を見て、勝ったと思いましたね。結果的には、勝負する前に勝っていたんですよ。そういうエピソードがあったということですよ。



勝負の心構え

監督、だからさっきもいったでしょ。戦う前に、もう相手が一枚も二枚も上ですからといったら、戦う前に負けているのよ。ね、やってみなければ分からないんだから、勝負ごとは。一発勝負は。

そのあたりの意識を強く持たないと、選手に以心伝心、選手もそういう先入観をもっているんだから、もともと。それが長が、そういう気持ちがあったら、もう戦う前に負けてしまう。

一発勝負、分からないだろう。トーナメントは。わからないよ。大物を食うことがあるんだよ。何が一番大事か。そういう先入観をもたないことだよ。おなじ人間がやっているんだよ。おなじ年代のやつらがやっているんだ。という、そう自分に言い聞かせて、普段の力の、まあ3分の2が出れば、だいたい勝てる可能性がある。みんながひとつになればだぞ、そのパワーが。これが一番大事なことだよ。目的意識が、みんなが本当に相

手を倒すんだという気持ちになったときに、ひとつになる。そのとき倍加するんだよ、チーム力は。

分かるか。それが、戦うまえに「あのチームに勝てないですよ」という意識がひとりでもあったら、絶対勝てない。

ユー・アンダースタンド？監督、俺監督にいいたいのよ。

監督がそう思っていなければ、絶対勝てないから。公言しなければ、みんなの前で、「絶対あの高校食ってやりますよ」というぐらい、後援会のみさんにも宣言していかなければ。それは負けるのは仕方がないよ、勝負ごとでは。でも戦う前から、負ける台詞を口に出したら長たる者の責任としては、言い訳をしているという、それしかとられないしね。結果も間違いなく負けるでしょう。

御願いますよ。子供達のためにも。一回しかない、一年に一回しかない大きな大会で、最後の最後、食ってやろうというぐらいの意気込みを。

でも、あのユニフォームの着こなさじや無理だけだね。はっきりいって、私もそう思うけども。

でも、それを俺は長たる人から聴きたくないということよ。俺がいうのはいいんだよ。他人だから。でも、身内でそういうことを思っちゃいけないということ。

御願いますよ。はなはだ簡単ではございますが。

相手の立場になって

一番大事な目的意識というものを持っていて、トライして行って、チャレンジして行って、行動して行ってほしいということを、若い人達にしたい。

また、実社会の中でも今厳しい状況だと思えます。そういう壁にぶつかっても、やはり、一番大事なものは何だ、目的意識もそうだろう、でも、横にのつながりですよ。

団体競技、野球を通して一番大事なものを学んだものは、横のつながりで、人生成り立っているんだなということ。ひとりの力でどれだけ頑張っ

でも、限界があります。でも、みんなの力がひとつになったときに、本当に力を発揮できるんだな、パワーを発揮できるな、ということを学んだのは野球をとおして初めて学びました。いい環境に育つことができました。

その一番大事な心構えは、何だろうということをお話させていただきます。最後だよ、これ。大野、ちょっとこっちへこい。

いま監督の技量を調べてみよう。俺から、大野に質問しよう。

大野君、大野君はキャッチボールをするときに、一番大事な心構えというか、注意していることが、監督から教わったことでもなんでもいい、心構えを言葉として表現してください。そうしたら、何と答えますか。

「相手の胸を見ていい球を投げる」

相手の胸を見ていい球を投げる、ここの野球部のレベルだなと思った。(笑い) 他にいえる選手いないか、野球部で、君いまなんかおうとしたな。それにつけくわえることがあるか。

「あのぼく、サッカー部です」

あ、サッカー部か！(笑い) ばか、隣に入るなまぎらわしい奴だな！まあ、いいだろう。頑張りなさい。

「相手の胸をめがけて投げる」うん、だいたいそういう風に教わるね。じゃ、なぜ相手の胸をめがけて投げるんだ？

「つぎにまた投げやすくなるように」

そこだろう、捕りやすいし、次相手が投げやすい。

ということは、そこまで考えていつもやっているかお前。結構マイウェイだろ。あそこに投げていればいいや。肩慣らしの程度でいいや。と思ってやっているだろう。

そうすると中畑さんみたいにマイウェイで、どんな距離感も関係なく全力投球してしまうわけ。相手なんか考えていないんだから、いつもマイウェイで自分のことだけでプレイが終わってしまうタイプだったの。

でも、一番大事なものは何だ。相手が捕りやすくて、次プレイしやすいことだろう。相手の立場になって物事を考えるということが一番大事なことだよ。

難しいボールきたらお前もいやだろう。できれば捕りやすいボール投げてくれよ。思うでしょ。

そういう気持ちをいつも持ってキャッチボールしてみなよ。そういうテクニックを身に着けるんだよ。どんな状況下にも、相手が悪いボールを投げても、また立て直して自分がいいボールをなげて、次いいボール投げてくれよという気持ちをもって、いつも練習してみなよ。コントロールはついてくるし、技量もどンドンいいほうに身についていってレベルアップしてくるんですよ。

だからいつも相手の立場になって物事を考えるということが、相手に対する思いやりだよ。これは女にも大事なことなんだぞ。わかるか？一方通行じゃいけないということだよ。マイウェイは、マスターベーションではいけないってこと。わかるか？

「(笑いながら) はい」

この気持ちが野球を通して一番大事な心構えじゃないかな、実社会にいても一番大事な心構えだろうと思います。そういうことをこれから心の中に持って、いまからでも遅くない、監督。

あっ、終わりの時間がやってまいりました。このことを最後に、声を大にして、一番大事な気持ちの持ち方として、これを大事にして、していきたいということでございます。

これで私の話は終わらせていただきます。

会場からの質問に答えて

最後にですね、皆さんから質問をいただきました。どんなことでもお答えをしたいと思います。大野君には、私のテレホンカードさし上げましょう。

「ありがとうございます」(拍手)

では、どんどん質問してください。あの、まんなかの先輩。

「個性を伸ばす教育が大事だということが最近いわれていますが、中畑さんが野球人生入られて、個性を磨かれたきっかけはなんだったか。もう、ひとついいですか」

ひとつにしておいてくださいよ。

「いやぜひ。中畑さんは、校長をやりたいかどうか」

校長先生ですか？校長にたいする夢はないですね。ぼくは女子校の保健体育の先生やりたかった

ですね。(笑い)

最初の質問ですけど、ぼく最初にだいたいそういう話していると思うんですけどね。ぼくはたまたまラッキーで、長嶋茂雄という非常に個性の強い、皆さんから愛されるってしまう、そういう手本のような存在があったんですね。だからそれに対して一歩でも近づいて行こうという企業努力をただけであって、自分自信のキャラクターはその後に、ある程度自信ができて、オリジナルのパフォーマンスを考えてお客さんに楽しんでもらおうという努力をしてきただけであって、たまたまぼくは目標にする存在があったということです。

何も聞いていなかったんですか？いままで(笑い) 質問としては、ありがとうございました。それじゃこのテレホンカード、大野、あの人にもっていってくれ。



「中畑さんが、絶好調を維持する秘訣を」

これはいい話ですね。ずーっと絶好調でいたいんですよ。でも、絶好調という言葉は私に授けてくれた人はですね、その当時、レギュラーを取ってまもなく、コーチであった土井さんですね。あ、まだレギュラーになってないときだな。練習のときに監督は自分のことを聞いてくるわけですよ。

「清、調子はどうだ」

そうすると、だいたいの選手は「まあまあです」とか「え、あまりよくないです」とか答える。それを聞いていたときにですね、土井さんが私をよんで「清お前、監督が調子どうかと聞いて、まあまあですとかそんな弱い調子で答えてくる選手絶対使わないぞ。どんな状況でも絶好調って試してみろ」と。それからですね、誰から聞かれても、絶好調です。絶好調です。絶好調です！

その言葉に助けられていますね、僕。

というのは、その「絶好調です」と言う言葉に対して自分自身の気持ちですが、なんかスランプの状態にあっても、絶好調なんだと思い込んでしまう。つまり、オウム教じゃないけれども、マインド・コントロールが自然と言葉で自分の気持ちの中に、やっぱり、操縦されていたんじゃないかと思います。だから、あまりスランプが続かなかったですよ。そういえば。だからこの言葉で随分助けられましたよ。

それから実社会の中で、絶好調という言葉いってくださいと頼まれるんですよ。でも、僕の世界だけのことなんですね。自分が作らなければ、その絶好調という言葉。なにかその力が湧いてくる自分のオリジナルなものを、選手ひとりひとりが作っていかなければいけないと思うんですよ。人真似ではいけない。

ただ、絶好調というのは、頂点だから、それ以上はないんですよ。だから、それを維持する努力はそれなりにしていると思います。今は監督になるためにいつも絶好調で、どんな状況に置かれても、自分の自己表現をしていくことが大事だなと思っています。絶好調でございますよ。頑張りますよ、私は。(拍手)

「いま、ヤクルトが走っていますが、ジャイアンツはそれを追い抜いて優勝できますか」

無理だろう！(笑い)

いやあのね、去年のジャイアンツの勝ちかたというのが、今年のヤクルトの走りかたと似ているのね。6月くらいまで10ゲーム近く離して、独走していたわけですね。でもそれが一年調子のよいバイオリズムがつづくなんてことはありえない。どこかで投打の歯車が狂って、波が落ちてくるときがある。ついこの間、その兆しがあったんだけど、また立て直しているよね。でも、この先本当に梅雨時期が過ぎて、夏場一番苦しい時期に、投手力で持ってきたヤクルトがあそこまで突っ走れるとは思えない。

で、ジャイアンツが『らしい』勝ちかたができるようになってきた。力で相手をねじ伏せていくような勝ちかたですね。そういう力のある勝ちかたができるようにちょっとずつなってきた兆しがあるんだね。いい方向に展開しだしてきている。

だから相手が負けてくれなければどうしようもないんだけど、その直接対決を含めてオールスターまでに5ゲーム以内、4ゲーム以内までに差が縮まれば十分逆転する可能性があります。

それでいままでジャイアンツの勝ちパターンというのは、もう先行逃げ切り型なの。今年は初めてその逆パターンで優勝しようとする監督の狙いがあるわけですよ。もう開幕時から5割りでいけばいいという考えで監督は補強したわけですよ。まだ、うまくいってないけどね。その兆しはできてきているから、最後に笑えるような気はします。ぼくはそう宣言しています。

でも、きついね。はっきりいって。難しいよ。だから、条件はオールスター以後桑田が復活することと、それと5ゲーム以内に差が縮まっていることが最低限の条件です。それがクリアできれば逆転は可能だと思います。

「ありがとうございました」

君も頑張りなさい。

最後もうひとりだけ。現役だな、いいだろう。

「僕はアンチ巨人なんです」

いいだろう！

「監督になるっていってましたよね。監督になるならどのチームの監督ですか」

いい質問だね、最後に。

私はそう宣言している以上、どの球団とはいっていない。自分の夢だから、チャンスがあればどの球団でも行きたいと思っている。でも、ひとつだけ条件がある。それは、行ってはいけない球団が一つだけあるんだ。

「どこですか」

日本ハム。なぜか、私はずーっと伊藤ハムのコマーシャルをやってきました。(笑い拍手) これは社長からくれぐれも、現役に復帰して監督をやるときには日本ハムの監督だけは勘弁してくださいと、一生の御付き合いをするのでそれだけは注意されているものですから。

「それで僕は横浜ファンなので、できれば横浜の監督になってほしいです」

これはそういうチャンスがあれば、拒まないと思いますね。でも、ジャイアンツの方がいいなと思ってますけど。(笑い)

「でも僕はアンチ巨人なんです、中畑さん個人は好きなんです」

ありがとう。それが一番本人にとっての誉め言

葉だし、俺はお前を好きになってしまうタイプだと思う。ありがとう。

「だから、サインください」

だから、テレフォンカードやるっていつているじゃないか！これで我慢しろ。

エール

時間がやってまいりました。

ほんとに話がとんだりしていますけど、それなりに自分の言葉は責任を持って話したつもりです。その中で、それなりに考えていただける面がありましたら、受け入れていただきまして、少しでもこれからの糧にしていいただければと思います。そうしていただければ、幸いです。私は、先程から宣言していますように、自分の道を迷いなく一步一步階段を踏みしめて頑張っています。その思いを込めて、最後に一曲歌わせていただきます。(拍手)

これは、年配の方々にはいい唄じゃないかなと思いますが、でも、中身は男たるもの人生、すべて明るさを持って生き通せたらいいなという歌詞なんです。歌詞のメッセージをここに託して、歌いたいと思います。僕のオリジナルな「エール」という曲です。

晴れた日ばかりじゃないさ

土砂降りの道はだして歩く

近道するんじゃないと

自分に約束した

遠く限りのない夢を抱いて生きてきた

それが俺の人生

走りつづけた日々よ

男は決して振り返るな

気取りを捨てて、迷いをすてて

男はずっと少年でいい

熱い心にエールを送ろう

どうも今日は長い間ありがとうございました

(拍手)

学校・学科・年次別卒業生数一覧

卒業 年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計
	第1本科		第2本科	併設	第1本科		第2本科	併設	電機第一 工業学校	電機第二 工業学校	
	電気科	機械科	電気科	中学	電気科	機械科	機械科	中学			
	E	M	E	J	E	M	M	J			
S 17		91							91		91
18	51	85							136		136
19											
20	101	91							192		192
21	58	48							106		106
22		100			133	50			100	183	283
23	53	106		161	78	26	8	243	320	355	675
24	116	65		359	190	49			566	239	805
合計	379	586		520	401	125	8	243	1,511	777	2,288

卒業 年次	全 日 制									定 時 制						小 計		合 計	
	電 氣 科									電 機 電 氣 科						全日制	定時制		
	電 力 課 程				電 氣 機 器 課 程		電 氣 通 信 課 程			電 氣 計 測 課 程	電 機 科		電 氣 科						
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I		E	M	E ₁	E ₂	M				C
S 24											94	10					104	104	
25	54	52			64		39						42	44			209	86	295
26	48	48	51	48	51		45						49	47	27	60	291	183	474
27	51	50	57		46	43	53						40	46	50	37	293	173	466
28	56	57			51		50						53		38	64	214	155	369
29	48	37			62		55		30				47		40	39	232	126	358
30	55	53			36	44	54		38				55		30	40	280	125	405
31	55	49			59		58	56	33				50		28	57	310	135	445
32	52	54			49		59	60	38				72		41	51	312	164	476
33	56	59			55		63	63	48				55		36	64	344	155	499
34	61	66			62		51	54	60				49		41	44	354	134	488
35	56	59			52		60	65	56				59		48	54	348	161	509
36	63				55		61	60	52				67		50	60	291	177	468
37	62				64		61	64	66				73		65	65	317	203	520
38	58	61			67		63		59				70		57	59	308	186	494
39	60				49		56	53	54				62		53	55	272	170	442
40	65				65		63	67	57				51		33	58	317	142	459
41													47	47		52		146	146
合 計	1,694				974		1,433		591	94	10	1,125		637	859	4,692	2,725	7,417	

卒 業 年 次	全 日 制									定 時 制			小 計		合 計
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	電 子 機 械 科	電 気 科		電 子 科	全 日 制	定 時 制	
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	I	M	E ₁	E ₂	D			
S 41	68	66		68	69	54		62					387		387
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128	519
43	54	54		58	54	54		55		46	41	37	329	124	453
44	60	64	28	67	64	68		28		64	22	42	379	128	507
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68	392
46	66	63		61	64	55	55			47		20	364	67	431
47	56	55		58	59	58	59						345		345
48	50	51		52	52	53	53						311		311
49	56	57		51	51	52	49						316		316
50	55	52		61	63	49							280		280
51	52	50		43	50	48							243		243
52	59	59		58	56	50							282		282
53	60	56		59	66	56							297		297
54	51	55		49	51	52							258		258
55	50	47		56	55	43							251		251
56	49	50		49	51	51							250		250
57	54	54		57	55	48							268		268
58	50	47		51	54	53							255		255
59	51	53		54	51	50							259		259
60	50	50		43	43	50							236		236
61	54	52		50	53	54							263		263
62	49	52		54	51	46							252		252
63	49	49		47	48				53				246		246
H 1	54	52		51	51				50				258		258
2	52	51		49	53				53				258		258
3	45	49		51	51				54				250		250
4	51	52		51	53				53				260		260
合 計	2,994			2,945		1,409		201	263	348		167	7,812	515	8,327

卒業 年次	全 日 制					合 計
	電 子 科		情 報 科		電 気 科	
	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁	C ₂	
H 5	44	43	44	46	44	221
6	42	39	42	42	41	206
7	40	43	43	37	41	204
8	40	39	39	41	44	203
合 計	498		336			834

卒業 年次	全 日 制					合 計
	普 通 科					
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	
S 27	37					37
28	30					30
29	39					39
30	47					47
31	58					58
32	42					42
33	50					50
34	50					50
35	60	55				115
36	55	54				109
37	55	53				108
38	51	55				106
39	59	56				115
40	63	64	60			187
41	63	64	63	65		255
42	60	63	64	62		249
43	58	56	58	58		230
44	60	53	53	51		217
45	55	57	57	57		226
46	54	51	54	57	54	270
47	49	49	50	49		197
48	54	54	54	53		215
49	52	52	55	48		207
50	51	50	51	51	50	253
51	53	53	54	52	42	254
52	52	54	53	51	52	262
53	52	51	53	52	52	260
54	55	55	56	56	49	271
55	54	53	55	54	50	266
56	47	49	49	49	47	241
57	53	51	54	52	48	258
58	51	50	51	51	52	255
59	51	50	49	50	51	251
60	47	46	46	45	43	227

卒業 年次	全 日 制							合 計
	普 通 科							
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇	
S 61	46	47	45	47	47	46		278
62	54	53	54	54	52			267
63	47	46	47	47	47	48		282
H 1	28	47	46	47	46	47		261
2	30	49	49	47	47	47	25	295
3	26	49	49	49	45	45		267
4	24	43	41	43	41	41	L ₇₋₈ 40	273
5	L ₁₋₇ 22	40	39	39	42	41		223
6	L ₁₋₈ 16	43	42	42	43	L ₆₋₇ 40		226
7	L ₁₋₈ 27	40	39	39	40	L ₆₋₇ 39		224
8	23	45	45	45	44	L ₆₋₇ 40		242
合 計	2,088	1,899	1,635	1,562	1,089	434	65	8,795

学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名改称や学科改編等により、複雑なクラスわけとなっております。

現在493のクラスがありますが、今回クラス委員承諾書を返送いただいた方のみ、委員として掲載させていただきました。空欄になっているクラスで、実際に活動されているクラス委員のかたのご一報をお待ちしております。

また、クラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力をお願い致します。

なお、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしております。委員の方には大きな負担をおかけしていますが、委員の同窓会活動は大変重要です。会員の皆様方も御協力をよろしくお願い致します。

【凡 例】

18	清水 明	・上段 クラス担任
	豊田 健造	・下段 クラス委員

卒業 年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校			
	第1本科		第2本科	併設中学	第1本科		第2本科	併設中学
	電気科	機械科	電気科		電気科	機械科	機械科	
	E	M	E		E	M	M	
S 17			稲垣 忠雄					
			佐々嶋長治					
18	堤 良富		清水 明					
	渡辺 和正		豊田 健造					
19								
20	清水 明		清水 明					
	高野 新吉		池ヶ谷道夫					
21	清野 明夫		作道 兵次					
	倉持 悦久		白石 哲					
22			服部 三郎			加藤 高治		
			栗屋 昭					
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉	早川 喜知	伊藤 克己	
	青木 仁				原口 喜八	深海登世司		
					金森 茂	清水 清		
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家		

卒業 年次	定 時 制					
	電気科	機械科	電 気 科			
			電 力 課 程		電気機器 課 程	電気通信 課 程
			E ₁	E ₂	M	C
S	吉田 宇一	伊藤 克己				
24	小竹 四郎					
25			服部 三郎	吉田 宇一		
26			鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
			荒井美喜男		小沢 位	天野 勇
27			横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八
28			河辺 貞夫		首藤 富家	森田 恒久
			佐藤 守弘			
29			鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫
30			河辺 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫
			宮田 利一		松本 和夫	菅谷 敏弘
31			小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫
32			河辺 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫
			茂木 実			
33			小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫
			亀山 孝		与儀 正久	
34			角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫
35			角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫
						池田 恒男
36			桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫
			野村 力男			富山 晃宏
37			杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎
			石崎 泰司		北川清太郎	宮城 一治
38			杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男
						中山 勇次
39			大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭
					松枝 連雄	坂本 寛
40			吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫
41			見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一
			小室 泰之	矢部 好雄		小杉 善美

卒業 年次	定 時 制		
	電 気 科		電子科
	E ₁	E ₂	D
S	横 将	山崎 修快	鈴木 治郎
42			
43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
44	人見 芳行		鈴木 治郎
	大石 四郎		小林 幸男
45	鈴木 治郎		鈴木 治郎
	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業 年次	全 日 制								
	電 氣 科			電 子 科			機 械 科		
	電 力 課 程			電 氣 機 器 課 程			電 氣 通 信 課 程		
	E ₁	E ₂	E ₃	E ₄	M ₁	M ₂	C ₁	C ₂	I
S	高橋 誠八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫		
25					服部 侯美		森山 満隆		
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善隆		中島 輝夫		
	加藤 正樹			中島 政良					
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(齊藤) 実	板垣 光夫	桜井 松治		
		岩田 慶一			今井 昇		野瀬 健一		
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井 悌二郎		鈴木 藤男		
		青木 良造					渡辺 正司		
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(齊藤) 実		中島 輝夫		伊藤 克己
	川田 保夫								尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治		大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男		守屋 正
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎	伊藤 克己
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志	小長谷 登
32	角川 一治	桜井悦二郎			中沢(齊藤) 実		中島 輝夫	寺尾 功吉	佐藤 善慶
	倉林 純一				吉川 洋		増田 克己	柳 博	
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良治郎	大江 康男
	飛田 偉靖	関 博			後藤 隆夫				
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(齊藤) 実		野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己
	平岡 義宏				松下 祐輔			仲野 成憲	中野 善夫
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司				渡辺 黎一
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶	白井光太郎	伊藤 克己
									藤田 安彦
37	野口 茂				齋藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫	石川 孝志
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦	
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎		伊藤 克己
	形屋 憲一	佐藤洋志郎			石川 邦雄		細田 勝久		鶴見 勝義
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 政夫	白井光太郎	渡辺 太
								三橋 慶二	渡辺 正行
40	中村 広幸				齋藤 広吉		桜井 松治	菊地 諒	伊藤 克己
								川村登志一	倉本 肇

卒業 年次	全 日 制							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工業計測科
	E ₁	E ₂	E ₃	D ₁	D ₂	M ₁	M ₂	
S	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
41	石附 正				印宮 登	柴田 耕 渡辺 高幸		
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
	原 邦男		畑山 昭一	平賀 徹				
43	齋藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	齋藤 広吉		渡辺 太
		和田 真一						
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年		岡田 和哉		由井 康雄
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
		岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 善之	鳥飼 洋一	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畑 有三		
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
	大橋富士人	山田 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 俊夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
49	関辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
		山口 孝博		高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高瀬 裕司			大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
52	関辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	横 将		
		大塚 徹		村上 裕一	前嶋 宏二			
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁			秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男		
55	松岡 三夫 石井 和之 榎原 俊行	津村 栄一 手塚 勝		菊地 諒	高村 広昭	横 将		
				山田 富夫	稲川 秀勝			
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要治郎	横山 秀樹		
57	齋藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
				平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
		木村 武晴		山本 誠人		江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹 佐藤 和幸 齋藤 広吉	亀岡 和裕 星野 雅幸 大田 健		大曾根康史 松田 和哉 渡辺 太	土屋 岳剛 前嶋 万人	鈴木 久郎 鈴木 正成 小峯 龍男		
60	深見 孝一 青沼 津村	宮崎 佳之 鈴木 治郎		石井 俊一 見崎 正行	染野 明夫 生熊 勝彦	猪鼻 一芳 岩崎 道義 宮本 治		
61	中村 登 幸保 廣 齋藤 広吉	坂井 光利 亀田 秀明 渡辺 太		鳴島 浩 増喜 太郎 中村 隆一	大和田 誠 妹尾 敬一	新井 智也 山岸 弘人 大湯 幸夫		
62	石田 亮 近藤 大輔	斎藤 直紀 木村 宏		豊島 徹朗 田中 篤史	寺島 大 児玉 泰輝	村井 潤 山本 克郎		

卒業 年次	全 日 制				
	電 気 科		電 子 科		電子機械科
	E ₁	E ₂	D ₁	D ₂	M
S	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴	小峯 龍男
63	村田 周也 藤本 賢司	石田 晋也 石山 隆	星野 信幸 田口 明洋	川勝 真喜 永木 康弘	佐藤 秀明 柳澤 恵行
H	中田 勇	津村 栄一	見崎 正行	内山 章夫	古城 仁
1	桜井 寿弥 清田 昌紀	西野 栄一 渡辺 浩成	池田 靖規 関根 康史	清水 憲一 矢澤 哲弘	白川 憲悟
2	鈴木 治郎	妹尾 敬	中村 隆一	上原 隆雄	大久保 靖
2	戸塚 敏朗 佐々木武志	草野 健一 高木 道夫	網藤 智	中島 浩一 徳田 信康	玉手 秀典 野見 貴行
3	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷 哲弘	小峯 龍男
3	甘利 友朗 佐藤 淳	落合 崇 高橋 好晴	前田 隆 松本 信寛	村社 敏夫 渡辺 永寿	石沢 岳彦 久保田恭弘
4	中田 勇	深川 絃司	内山 章夫	林 幸男	石松栄一郎
4	石井 英二 澤 雅祐	藤川 雅治 梅沢 康剛	立脇 竜 谷 伸彦	岡山 進一 両角 祐樹	中村 一道 吉田 康輔

卒業 年次	全 日 制				
	電 子 電 気 科			情 報 科 学 科	
	D ₁	D ₂	D ₃	C ₁	C ₂
H	津村 栄一	上原 隆雄	平川 吉治	中村 隆一	八百屋 尚志
5	中島 功 根本 雅範	田島 孝洋 青木 圭樹	片山 誠司 枳丸 弘樹	田島 真照 平野 文崇	照井 博志 高橋 洋一
6	見崎 正行	河野 吉伸	五十木基晴	小峯 龍男	渡邊 盾夫
6	福田 貴之 中山 竜一	石井 淳 原田 洋介	玉井 貴司 西田 哲郎	市川 大輔 遠藤 好鏡	梅原 誠之助 小 家 一
7	前嶋 万人	平山 桂樹	内山 章夫	深谷 哲弘	生熊 勝彦
7	稲垣 裕介 加藤 貴仁	西部 洋晴 林 大樹	柴田 亨 山本 和裕	岩本 雅輝 田原 裕之	飯塚 洋平 小池 伸之
8	津村 栄一	大久保 靖	今福 浩太郎	林 幸男	山内 雄司
8	齋田 清隆 吉澤 博之	櫻本 裕文 森田 圭一	恩田 拓 武田 知之	坂元 淳一 横田 聡	高橋 和義 宮田 悠輔

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S	青木 成宗				
27					
28	吉田 孝俊				
29	宮本 敏雄				
30	平野 三郎				
31	佐藤 吉弥 黒岩 藩				
32	大久保芳随				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳随 笠井 武保	北原 泰彦			
36	神庭 明 相川 祐三	大渡 正治 植田 正昭			
37	伏見栄次郎 藤田 明也	吉田 孝俊			
38	大久保芳随 加藤 計夫	伏見栄次郎 我妻 功規			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊 渡辺 貞綱	伏見栄次郎 高橋 新平	平野 三郎		
41	大渡 正治	杉野 良知 野村 仁	石川 孝志 村田 陽一	大久保芳随 松井 努	
42	中島 輝夫 光木 保臣	山田 宏明 戸江 栄一	磯辺 昭二	白川 守昭 大館 敏夫	
43	神庭 明 上原 博通	石川 孝志 宮沢 秀実	板垣 光夫 六反田和幸	吉田 孝俊	

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅
S	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳随	
44	中村 悟	杉山 行男	渡辺 洋一	木伏 明人	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
46	杉野 良知	横 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
47	大久保芳随	磯部 昭二	齋藤 成信	高久 広毅	
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
50	半田 孝		新井 建也	藤田 清	
51	杉野 良知	磯部 昭二	齋藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	齋藤 成信
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
55	宮本 真一				坂本 尚孝
56	大江 康男	齋藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
57	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
58	大谷 稔	田上 光治	磯部 昭二	石川 孝志	板垣 光夫
59	岩本 健	及川 俊也	飯田 公司	岩井 厚	長堀 岳治
60	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
60	鈴木 幹也 下間 靖浩	内藤 剛 中島 忠彦	松島 克幸 英道 泰幸	藤原 国之 渡辺 泰幸	加藤 剛 矢津 洋一
60	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
60	宮田 寛 向 裕次	高田 剛史 宮坂 茂春	京極 政宏	小宮山敏樹 腰原 潔	今中 繁義 坂田 朝徳

卒業 年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L ₁	L ₂	L ₃	L ₄	L ₅	L ₆	L ₇
S 61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	榎 将	吉場 章二	飯島 稔	
	小俣 憲一 藤森 克巳	海老沢 浩 西木 章員	服部 義郎	岩見田慎也 志村 祐幸	木齊 央 山田 賢二	安達 三博 横田 昇	
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広毅	齋藤 成信	平山 桂樹		
	大畑 和彦 渡谷 郁夫	森田 正明 佐々木 徹	佐藤 憲一 永井 智人	高橋 宏明 平石 真行	長谷川一之		
63	山崎 晴康	人見 芳行	高村 広昭	石川 孝志	山田 宏明	大谷 稔	
	高橋 政人 福島 修	三谷 哲也 鈴木 理裕	斎藤 貴治	小林 利行 阿由場宏之	杉本 哲也	長島 正美 中林 元	
H 1	中村 圭佑	林 幸男	田上 光治	向芝 京太	吉場 章二	飯島 稔	
	大石 洋治 坂本 和規	中西 勇人 小野 裕三	入江 睦也	青木 健 石井久仁彦	小暮 忠 神保 秀樹	小山 秀樹	
2	白川 守昭	山崎 武光	高久 広毅	宮本 治	生熊 勝彦	川口 純	平山 桂樹
	佐伯裕次郎 小川 克也	服部 正樹 林田 英明	河相 崇 村松 信秀	青木 義幸 中山 博	遠山 竹司 中村 孝一	田中 典明	高月 陽介 西山 隆
3	齋藤 成信	人見 芳行	高村 広昭	八百屋尚志	則友 克敏	山崎 晴康	
	和田 崇秀 高田 忍	沢田 和也 鈴木 勇	多胡 真宏 森 正直	大島 直樹 山外 知一	浅野 貴行 大槻 直哉	藤井 宣彰 桜井 隆雄	
4	中村 圭佑	黒沼 康広	榎 将	田上 光治	向芝 京太	山崎 武光	飯島 稔
	横田 智寛 山口 潤	長澤 将章 吉田 浩康	五十嵐哲哉 仁平 雅実	田沼 玲男 土屋 正明	戸部 拓也 矢古宇 卓	向後 隆彦 中村 真也	田邊 敏宏 木野 岳人
5	L ₁₋₇ 高久 広毅	宮本 治	大谷 稔	川口 純	妹尾 敬	大久保 靖	
	永野 泰介 北川 研	小川 智成 田口 浩	飯塚 正基 鈴木 貴宏	中杉 俊之 山崎 啓誉	金子 泰夫 関口 昌宏	奥田 朋良 福田 弘明	
6	L ₁₋₈ 齊藤 成信	古城 仁	高村 広昭	前田 輝明	吉場 章二	L ₆₋₇ 山崎 晴康	
	小股 淳 小木 勇樹	沖 莊一郎 米田 睦仁	大野敬一郎 田島 俊彦	稲垣 洋行 長南 和夫	浦沢 誠一 中野 徳康	松井 竜作 松本 剛	
7	L ₁₋₈ 田上 光治	中村 清孝	人見 芳行	米山 裕	黒沼 康広	L ₆₋₇ 飯島 稔	
	田中 哲也 中西 俊輔	関口 雅人 古田 智久	伊藤 謙志 田村 智文	高嶋 譲 高橋 寛	北原 秀和 富澤 宗介	有馬 裕輔 竹内 将人	
8	宮本 治	八百屋尚志	上前 隆雄	大谷 稔	吉場 章二	L ₆₋₇ 平川 吉治	
	新井 政弘 石井 守	在田 亮二 若林 俊介	東 拓也 太田 達也	今井 亮介 高原 宗一	大井 亮祐 加藤 寛志	浅井 哲也 比留間 潤	

平成8年度

幹事会議事録

期間：平成8年4月～11月

◆第363回幹事会 5月17日(金) 於校友会会議室

- 議題：1.総会準備について
2.役員候補について
3.その他

◆第1回拡大幹事会 (364回幹事会)

6月29日(土) 於高等学校会議室

- 議題：1.平成8年度総会開催について
2.卒業者名簿の発行について

◆第37回高等学校同窓会総会(同日)

於 小金井キャンパス小ホール

来賓：広川学園理事長、加藤校友会理事長、
小林電機学校同窓会長、松岡高等学
校長(同窓会名誉会長)

議題：大塚会長を議長に選出

- 1.平成7年度事業・決算報告＝向芝副会
長および内山幹事より報告ならびに
説明があり承認された。
2.平成8年度事業計画案・予算案の説明
があり承認された。
3.平成8・9年度役員の承認

再選12名、退任5名
総会終了後、学校主催による『第10回卒
業生招待会』が1階カフェテリアにおいて
開催された。

◆第365回幹事会 7月19日(金) 於校友会会議室

議題：平成8年度役員改選

出席幹事の互選により
会長(萩原宏芳)、副会長(石崎泰司、
向芝京太) 庶務幹事(柴田耕一)、会計
幹事(内山章夫)の各氏が就任した。

◆第366回幹事会 9月4日(水) 於校友会会議室

議題：1.「朋友」の発行について
向芝副会長より発行時期・紙面構成
の検討、編集委員の構成、記事提供
者への謝礼等の問題提起があり検討
することとする。

2.下半期事業の推進について
教職・クラス委員懇談会の開催を決定
しクラス委員への呼び掛け強化を確

認した。

3.同窓会の今後について意見交換

◆第367回幹事会 10月30日(水) 於校友会会議室

議題：1.上半期事業および会計中間報告(内
山幹事)

2.朋友の発行に対する提案について
前回提起のあった問題点について役
員会にて検討することとした。

3.校友会将来計画委員会中間答申につ
いて意見交換

4.教職・クラス委員懇談会開催の実施
について討議

◆役員会 11月14日(木) 於高等学校会議室

議題：1.教職・クラス委員懇談会の内容およ
び担当確認

2.朋友の発行について

イ.朋友編集委員として清水岩生、石崎
泰司、串橋幸保の3氏に正式に委嘱
することとし、向芝京太(委員長)、
古城仁、河野吉伸、内山章夫、米山
裕の5氏に前記3氏を加えた8名の
編集委員会として強化を図ること
とした。

ロ.今年度の発行については冊子タイ
プとする。今後については通常、新
聞形式とし3年に1度ダイジェスト
要素を加味した冊子形式での発行
とする。

◆教職・クラス委員懇談会 11月30日(土)

於 校友会会議室

松岡校長以下30余名の出席をえて「同窓会
の現状と今後について」意見交換を行った。
懇談会終了後、「魚海船団神田町店」にて懇
親会を開催した。

同窓会の活動報告

同窓会役員名簿

役名	氏名	卒年	役名	氏名	卒年	役名	氏名	卒年
名誉会長	松岡三夫	39	6・7年度幹事	豊田健造	18	7・8年度幹事	佐々嶋長治	17
会長	大塚忠克	48		阿久津功	23		池ヶ谷道夫	20
副会長	向芝京太	35		鈴木治郎	24		清水岩生	20
会計	萩原宏	56		宇野敬助	27		岩崎昭二	20
庶務幹事	米山裕	37		芝山茂男	30		中村広幸	24
顧問	串橋幸保	17		小長谷登	31		北風康夫	29
「	吉田宇一	23		白川節太郎	33		間川清太郎	29
「	宮崎登仁	23		松下祐輔	34		見崎正行	35
「	青木四郎	23		大塚忠克	40		石串橋幸博	37
「	鷺見篤	23		北尾義弘	41		小加藤克己	39
「	谷沢正一郎	27		印宮登	48		柴田耕一	40
「	加藤健一	29		平野修一	49		須賀敏光	41
「	柴山茂男	30		古城仁	50		山口孝博	48
「	賀張雅弘	31		鈴木元樹	54		河野吉章	49
「	松下祐輔	34		米山裕	56		内山田秀	53
「	印宮登	41	会計監査	横山真一	27	会計監査	池海老原万理	54
							加藤榮治	62
								30

平成7年度事業報告

- 総会 於小金井キャンパス 平成7年7月1日
1.平成6年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認。
2.平成7年度事業計画案、予算案の審議および承認。
3.役員改選。
[2] 35周年記念後援会（総会終了後）
講師：中畑清氏（元読売巨人軍コーチ）
記念品贈呈（学校）拡大コピー機
[3] 同窓会紙「朋友」1995年版の発行、平成7年度クラス委員名簿改訂版（18）の発行。
[4] 平成7年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収（5月）
[5] 同窓会幹事・教職員・クラス委員懇談（12月）
[6] 新会員に同窓会活動について説明会（平成8年3月）
[7] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会（平成8年3月）
[8] 入学記念品として、ネクタイピンを贈呈（平成7年4月）
卒業記念品「証書挟み」贈呈（平成8年3月）
[9] クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給
[10] 準会員活動、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の援助
[11] 卒業生招待会の協力（7月）

平成8年度事業計画（案）

- 総会 於小金井キャンパス 平成8年6月29日
1.平成7年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認。
2.平成8年度事業計画案、予算案の審議及承認。
3.役員改選。
4.その他
[2] 同窓会活動の活性化について
幹事会議事録をクラス委員に発送（年2回）
[3] 同窓会拡大幹事会（クラス委員含む）の開催
[4] 同窓会誌「朋友」1996年版の発行、平成8年度クラス委員名簿改訂版（19）の発行。
[5] 平成8年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
[6] 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
[7] 新会員に同窓会活動について説明会（平成9年3月）
[8] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会（平成9年3月）
[9] 入学記念品として、ネクタイピンを贈呈（平成8年4月）
卒業記念品「証書挟み」贈呈（平成9年3月）
[10] クラス会を開催するクラスに補助金として10,000円を支給
[11] 準会員活動、武蔵野祭優秀展示作品の奨励
体育祭、文化講演会、クラブ活動等の援助
[12] 卒業生招待会の協力（7月）
[13] 卒業生名簿の製作（校友会名簿委員会）

平成7年度決算報告

（平成7年4月1日～平成8年3月31日）

（単位：円）

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金	1,540,800	事 業 費	1,644,531
補 助 金	500,000	総 会 費	612,721
利 子 ・ 配 当 金	1,977	クラス委員懇談会費	157,173
雑 収 入	628,187	クラス会補助金	310,000
		同窓会誌製作発行費	478,637
		新クラス委員懇談会費	86,000
		会 議 費	143,743
		事 務 通 信 費	162,694
		諸 予 備 費	149,655
			391,878
小 計	2,670,964	小 計	2,492,501
前 期 繰 越 金	1,516,947	次 期 繰 越 金	1,695,410
収 入 合 計	4,187,911	支 出 合 計	4,187,911

平成8年度予算（案）

（平成8年4月1日～平成9年3月31日）

（単位：円）

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
入 会 金	1,602,000	事 業 費	1,500,000
補 助 金	500,000	総 会 費	550,000
利 子 ・ 配 当 金	2,000	クラス委員懇談会費	200,000
雑 収 入	100,000	クラス会補助金	400,000
		同窓会誌製作発行費	250,000
		新クラス委員懇談会費	100,000
		会 議 費	350,000
		事 務 通 信 費	150,000
		諸 予 備 費	200,000
			1,699,410
小 計	2,204,000	小 計	3,899,410
前 期 繰 越 金	1,695,410	次 期 繰 越 金	0
収 入 合 計	3,899,410	支 出 合 計	3,899,410

平成7年度準会員事業基金運用報告

（平成7年4月1日～平成8年3月31日）

（単位：円）

科 目	金 額
クラブ活動奨励費	454,190
スレッドマシーン	341,548
ボールカゴ	42,642
ボックスカウンター	70,000
全学行事	973,470
在校生名簿作成費	136,454
体育祭奨励費（参加賞）	147,462
文化祭奨励費（優秀部門表彰）	40,420
同窓会誌製作発行（在校生分）	399,421
文化講演会録製作費	51,500
卒業式副賞費	198,213
卒入学記念品費	420,908
入学記念品費（タイピン）	272,538
卒業記念品費（証書挟み）	148,370
小 計	1,848,568
前 期 繰 越 金	0
合 計	1,848,568

平成8年度準会員事業基金運用報告（案）

（平成8年4月1日～平成9年3月31日）

（単位：円）

科 目	金 額
クラブ活動奨励費	
優秀団体表彰	
全学行事	
在校生名簿作成費	
体育祭奨励費（参加賞）	
文化祭奨励費（優秀部門表彰）	
同窓会誌製作発行（在校生分）	
文化講演会録製作費	
卒入学記念品費	
入学記念品費（タイピン）	
卒業記念品費（各賞表彰）	
卒業記念品費（証書挟み）	

東京電機大学高等学校同窓会会則

第1章 名称および事務所所在地		事会の議長となる。	
第1条	本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。	3	副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
第2条	本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町1-4東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井市梶野町4-8-1東京電機大学高等学校内に置く。	4	会計は本会の会計を担当する。
第2章 目 的		5	庶務は本会の庶務を担当する。
第3条	本会は会員相互の親睦を図り併せて会員の母校との連繫を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。	6	幹事は会務を分担し、会の運営に当たる。
第3章 会 員		7	地域委員は地域同窓会を、クラス委員はクラス会を開催し、会との連絡を緊密にし、会の発展を図る。
第4条	本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。	第8条	会長、副会長の任期は2ヶ年とし再選を妨げない。
2	正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業高校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。	2	幹事および会計監査の任期は2ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。
3	準会員は東京電機大学高等学校の在校生とする。	3	前1項および2項以外の役員の任期は1ヶ年とし再任を妨げない。
4	特別会員は東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。	4	役員に欠員を生じ、会の運営に支障あるときは補充することができる。但し任期は前任者の残任期間とする。
第5条	準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。	第5章 会 合	
第4章 役 員		第9条	総会は毎年1回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決をおこなう。
第6条	本会には次の役員を置く。	第10条	幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。
一	名誉会長1名	2	クラス委員会、地域委員会は、それぞれクラス会、および地域同窓会の要望事項を協議し、幹事会に提案する。
二	顧問および参与若干名	3	クラス会、地域同窓会およびその他の会は随時に開催できる。
三	幹事25名以上50名以内（うち、会長1名、副会長2名、会計、庶務各若干名を含む）会計監査2名		各会を開催した場合は会長に結果を報告する。
四	クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名を置くことができる。	第11条	幹事会の議決は出席人員の過半数の賛成を必要とする。
第7条	名誉会長、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べるができる。	第12条	本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。
2	会長は本会を代表し、会務を総括し、幹		

第6章 会費および会計		付 則	
第13条	本会に入会するものは会費を納入するものとする。	1	本会則は昭和35年4月17日より施行する。
2	本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。	2	昭和46年 5月15日第6条四項一部改正 昭和47年 6月27日第6条一項一部改正 昭和50年 6月 7日第13条一項一部改正 昭和56年 6月27日全面改正 昭和57年 6月26日第13条一項一部改正 昭和60年 6月22日一部改正 平成4年 6月20日全面改正
第14条	諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。		
第15条	会計監査は、本会の会計を監査する。		
第16条	本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。		
第7章 会則の改正その他			
第17条	本会則の改正は総会の議決を要する。		
第18条	本会の運営上必要と認めたときは細則を設けることができる。		

東京電機大学高等学校 同窓会会則細則

第1条	名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴する。	8 会則第12条による委員会の委員は幹事会の推薦により定める。
2	顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。	第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。
3	参与は会長（旧会則による幹事長を含む）の経歴のあるもの、または幹事（旧会則による常任幹事を含む）の経歴のあるもので幹事会の承認を得たもの。	第3条 本細則の改正は幹事会の議決を要する。
4	会長および副会長は幹事会の互選で定める。	付 則
5	会計および庶務は幹事会の互選で定める。	1 本細則は昭和35年4月17日より実施する。
6	クラス委員はクラス会より選出する。	2 昭和56年6月27日全面改正
7	地域委員は地域同窓会より選出する。	3 昭和60年6月22日全面改正
		4 平成4年6月20日全面改正

中学担任奮戦記

中学校1年担任 樋田 毅

再開された東京電機大学中学校もようやく1年がたとうとしています。この1年は、高校生しか相手にすることのなかった私たち教員にとっても、戸惑うことの多い年でした。中学生とすごしたこの1年を振り返ってみました。

今の子供たちはよくジュースを飲みます。この



写真は入学式後の下校風景ですが、ここにもジュース片手の生徒が3人も写っています。このあと飲み終わった空き缶はきちんと捨ててくれたかな？ いまにして思うと、担任としてちょっと不安です。というのも、入学式直後の教室には、ぼい捨てたアメやガムのつつみ紙が落ちていたからです。学校でお菓子が禁止されていないということもあったでしょうが、中学生ではこういうことからきちんと指導しなければいけない、これが中学校担任の出発点でした。そこで、たとえば林間学校では再生紙工場を訪れ、社会科見学会は下水処理場に行き、単に社会科で授業するだけではなく、生きた知識としてゴミの問題を考えさせました。その結果、いまではボランティア委員を編成して学校周辺のゴミ拾いなどをするまでになりました。特にタバコの吸い殻については、生徒たちは自らアイディアを出して、周辺の道路にあき缶で作った吸い殻入れを設置しました。入学当初からみると、生徒の確かな成長を感じます。

ところで、本校の理科教育の充実には誇るべきものがあります。これは、数学の教員である私が見てもうらやましいと思えるほどです。カエルの解剖では、楽しんでいる子、不安な子、さまざまな生徒がいました。しかし、これらの実験が自然に対する関心や興味を呼び起こしているのは確実だと思います。カエルのお墓を作ってあげていたの

も印象的でした。

高校生に混じって参加した体育祭も、教員にとってはいい経験でした。たとえば、一見、楽しそ



うに見える綱引きですが、実はこんなことがありました。綱引きはクラスごとにつばのない帽子をかぶって対戦するのですが、すんなりかぶる子、はずかしくて帽子をかぶれずに出場しないとダダこねる子など、いろいろの反応を示す子がいたのです。この時は自分も同じ帽子をかぶることで生徒を納得させましたが、精神的な発達に個人差が大きいことをあらためて思い知らされました。

こんなことから、中学生の体育祭では体育科の先生方を中心として生徒の自主的活動で成功してきた高校生のやり方ではだめで、担任を中心としてもっともっと準備に時間をかけなければいけないのかな、などと反省しています。



2年生になればもっといろいろなことが起こりそうです。いまから不安と期待が半ばしています。

以上、雑駁ですが、担任として見た中学校の様子をご報告いたしました。同窓生の皆様、これからも東京電機大学中学校をよろしく願い致します。

編集後記

朋友第12号（平成8年度版）をお届けします。

朋友はこの2年間、新聞形式で発行いたしました。印刷郵送代を安くし、より多くの同窓生に送れるようにとの考え方からでした。しかし、この形で発行してみると、「新聞形式だと、なくなりやすく、保存しておくのに困る」という声が多く寄せられました。そこで編集委員会で議論した結果、記録と保存のために、何年かごとには冊子形式での発行にしようとの結論になりました。ですから、これからは、年度ごとに両方の形式を切り替えて発行していくことになります。

今年度については、会長が交代いたしましたので、新しく会長に就任された萩原さんと、退任された大塚さんからのご挨拶、また昨年度実施した「中畑清講演会」の全記録を中心に、冊子形式に戻しての発行とすることになりました。できればいかががでしたでしょうか。

編集委員一同これからもよりよい内容での発行を目指していきますので、同窓生の皆様のご支援をお願いいたします。

〈編集担当〉

平成9年3月6日発行（非売品）

〔編集兼発行所〕

東京電機大学高等学校同窓会

住所：東京都千代田区神田錦町1の4

東京電機大学校友会

電話：03（5280）3512

東京電機大学高等学校

住所：東京都小金井市梶野町4-8-1

電話：0422（37）6441（代）